実行委員会報告

実行委員長 宗 宮 功

1. はじめに

第15回国際水質汚濁研究会議が平成2年7月29日から8月3日まで延べ6日間にわたり実施されたが、すべてのプログラムが滞りなくスムーズに実施され、参加された方々のすべてから参加して Happy であったとの評価や評判を耳にすることができ、実行関連事項を担当したのものとして、大変満足しありがたく感じているところである。なお、今回の会議開催国であるアメリカの理事等からも賞賛の言葉をいただいております、今回の活動を参考に、次回は一層発展的に強化する必要があるとの印象を得たと伺っている。今回の会議が単に参加者が最大になったというだけでなく、科学・技術プログラムや各種行事を含め、これからの会議の開催のひとつの方向を示したものであるとすれば、会議主催関連者の一人として大変に嬉しい限りである。ここに、会議を振り返り、実行委員会関連の仕事や行事関連事項を整理し、記録として紹介する。

2. 実行委員会関連タイムスケジュール

表2は本年7月20日に理事会関連の現地業務が実際に開始されるまでの最近1年半にわたり、実行委員会として開催した主な会議日程記録を示すが、十数回の委員会とかなりの打ち合わせ会を開催し、実行委員会内の総務小委員会では、主として理事会関連事項と運営委員会との連絡を担当し、行事小委員会では、主として、本会議関連のソーシャルプログラムやファミリープログラム、テクニカルツアー関連事項を、また会場

Isao Somiya

昭和42年 京都大学大学院博士課程修了

43年 京都大学工学部助教授

54年 同 教授

京都大学工学博士

国際オゾン協会副会長

表1 実行委員会委員

('90年7月29日現在)

担 当	氏 名	所 属
委 員 長 委 員	宗宮 功	京都大学工学部
	奥野 年秀	兵庫県公害研究所
	小野 芳朗	京都大学工学部
	鈴木 秀男	京都市下水道局
	武田 信生	京都大学工学部
	津野 洋	同 上
	津村 和志	同 上
	西野 昭男	㈱クボタ
	藤井 滋穂	京都大学工学部
	松井 三郎	京都大学工学部
	森下 典昭	㈱日水コン
	米田 稔	京都大学工学部

小委員会では国際会議場内での使用会場ならびに施設類の整備・検討を担当してきた。基本的には、会場として京都国際会議場を利用することはすでに2年前のブライトンでの第14回国際水質汚濁研究会議の理事会において公表してきたところであるが、表の時間経過に見られるごとく、以下のような細部の詰めが進められた。IAWPRCの執行委員会ならびに理事会を開催する場所として妥当なホテルや会議室の検討あるいは各種ホテルを実地に見聞してのヘッドクォーターホテルの決定、各種行事内容の検討、とくに25周年記念の祝賀方式、あるいは各種テクニカルツアーの設定、日本的（京都的）ファミリープログラムの設定と関連施設との対外折衝、さらには会場設営・運営の学生アルバイトやスタッフの配置の準備など、運営委員会内での各事項の進展とともにそれぞれ関連委員会（プログラム委員会や広報委員会、展示委員会や財務委員会など）との内容打ち合わせや規格や呼び名の統一、あるいは日本コンベンションサービス(JCS)やトラベラーエージェントである東急観光との打ち合わせ等などで

表2 実行委員会記録

日 付	場 所	会 議 内 容
88.03.07 88.06.03	京大土木318号室 京大土木318号室	実行委員会の作業委員会発足。会議概要、作業概要、今後の予定を検討 実行委員会委員紹介と役割分担、総務小委員会(宗宮、松井、藤井・京大)(森下・日水コン)(西野・クボタ)、行事小委員会(津野、小野・京大)(鈴木・京都市)、会場小委員会(森沢、武田、米田・京大)(奥野・兵庫県)、ICA 連絡(津村・京大)。各小委員会の機能と管轄内容について検討
88.06.09	京大土木318号室	各小委員会毎に検討内容を更に検討し、運営委員会、JCS、東急観光と実行委員会の分担事項を確認
88.09.01	京大土木318号室	運営委員会提出書類の作成。実行委員会用意の ANA ホテル運営計画と旅行、社交プログラム原案作成
88.11~12	京都市内各ホテル	ヘッドクォーター(HQ)用ホテルの実地視察
88.11.17	京大土木318号室	運営委員会を受けての実行プログラムの詳細、とくに会場使用計画
89.01.16	京大水質研	HQ ホテル案の作成、総務委員会への報告、ロンドンオフィスへ打診
89.02.01	京大土木318号室	京大内実行委員会連絡会：HQ 用ホテル案の検討
89.03.23	京大土木318号室	実行委員会：メインホテル選定(京郡 ANA ホテルをメイン、京都国際ホテルをサブとする原案を作成)と行事内容の検討
89.05.19	京大土木230号室	旅行計画の詳細検討：受け入れ先の決定と申請(電話連絡)
89.05.23	京都国際会館	実行委員会と JCS で会場使用計画の検討
89.05.29	京大会館103号室	実行委員会：資金運用計画の策定、会場計画及び旅行計画の最終計画案決定
89.07.18	京大水質研	JCS 来学のための折合せ
89.07.19	京大土木318号室	JCS と詳細検討のための京大内実行委員会との検討会
89.08.30	京大水質研	テクニカルツアー受け入れ先への施設見学願提出：京都市、滋賀県土木部、大阪市、松下電器
89.12.06	京大土木318号 京都国際会館	実行委員会：会場使用計画、開催までのスケジュール。全実行委員による会場視察
89.12.18	京都府庁	京都府へ依頼した理事会晩餐会などの次年度予算化を依頼に出向く。なお、東京にて拡大運営委員会があり、JCS から会議までのスケジュールの作成案が提示された
90.01.15	京大土木318号室	京大内実行委員会と JCS、KICH、東急観光スタッフで作業進行の検討会。運営マニュアルの提出を望む
90.02.11	京都本隆寺	ファミリープログラム生け花家元(東山末生流)に講習依頼
90.02.15	京大土木203号室	実行委員会：運営委員会で検討すべき問題点の提示。社交プログラムの運営マニュアルのひな型提示。実務委員会、理事会予定表提示、実行予算の検討
90.03.16	水質汚濁学会場	実行、プログラム、広報各委員で責任分担について協議し各委員会に持ち帰る
90.04.07	京大土木318号室	京大内実行委員会、総務委員長、運営委員長、プログラム委員長で各分担を協議、会長の来日スケジュール、会場スケジュールを確認。KICH 会場視察
90.04.11	京大水質研	滋賀県南部水道事務所へ見学依頼書提出
90.04.24	京都市庁、京都府庁	大会長、総務委員長、実行委員長が京都市長、京都府知事に挨拶
90.05.12	京大水質研	ツアー関連予算の最終見積提示(東急観光)
90.05.15	東京	Milburn 事務局長来日。細部の最終打ち合せ
90.06.12	京大水質研	大阪市下水道局長宛見学依頼書再度提出
90.06.20	京大水質研	Gala Night 仕掛花火文字を通知(国友銃砲)。Sayonara Party 用の枅の発注
90.06.25	京大水質研	大阪府鴻池処理場英文パンフレットの作成。京都市長、京都府知事へ出席依頼状
90.07.02	京大水質研	お茶会、手拭の発注
90.07.03	JR 京都駅京都市交通局	市内案内板のため JR 東海、JR 西日本、京都市交通局へ申請手続き
90.07.05	滋賀県 処理場、浄水場	滋賀県湖南中部浄化センター、吉川浄水場スタッフと打ち合せ。このころ他のツアーに関しても電話連絡。詳細打ち合せ。
90.07.08	京都本隆寺	生け花、東山末生流講習手順の打ち合せ。
90.07.10	京大水質研	学生アルバイト計画と会場計画の策定・確認
90.07.13	京大土木318号室	実行委員会：運営マニュアルの案提示と運営机上リハーサル、理事会夕食会会場の下見
90.07.20	京大土木318号室	KICH 食堂部と社交行事内容の最終打ち合せ
90.07.22	京都国際会館	生け花スタッフと KICH にて現地打ち合せ
90.07.29	京都国際会館	滋賀県吉川浄水場説明英文パンフレット京大にて作成

ある。

平成2年7月13日の最後の実行委員会においては、実行委員会メンバー、JCSのメンバー、東急観光からのメンバーおよび京都国際会議場からのスタッフを交えて、JCS作成の運営マニュアル案に沿って、京都国際会議場で実行される行事内容をすべて机上でリハーサルして確認した。つまり、各発表会場の設営やサイマル対応、展示会場での仕事内容だけでなく、会場への参加者のアプローチ問題、会場での受け付け体制、日本ならびにロンドンの事務局対応、食事問題、苦情処理体制、郵便局やら宅急便、さらに両替・銀行、インフォメーションの設定方法、各種ブースの設定、10トンに及ぶプレプリントをいかにしてコンgresバックに詰め込むかまで、7月28日から実地に始まる様子を個々の仕事毎にトレースし、担当者ないし実施可能性、問題点を洗いだし、個々の仕事内容実施に当たり遺漏のないように点検確認した。当然このリハーサルにより実行委員会各メンバー自身も、全体としてのどのように会が運営されていくかを理解することができ、当日緊急的な問題に対応してもらいう事ができるようになることを目的としたものであった。

表3は国際会議に関連した2週間の詳細予定表を平成2年7月14日に作成したものである。国際会議事前1週間には恒例として実施される国際水質汚濁研究協会（IAWPRC）の執行委員会ならびに理事会関連の諸行事があり、実行委員会の仕事は本会議開催の1週間前にすでに始まっている。今回はIAWPRCの会長であるProf. Harremoesは7月21日に北京から東京に来日、翌日曜日には東京大学松尾教授とともに京都へ入洛され、また事務局長のMr. Milburnならびに大会長の松本教授もそれぞれ土曜日ならびに日曜日に入洛されている。これらの国際会議執行部の各要員の宿の手配、事務的な必要用品の用意や下打ち合わせを日曜日に済ませている。月曜日・火曜日と執行委員会が開催され、木曜日・金曜日と理事会が持たれている。なお、詳細については次節に記す。

3. 執行委員会との理事会の開催関連について

今回のヘッドクォーターホテルである京都ANAホテル内に、IAWPRC会長、事務局長ならびに京都会議大会長の宿舎を、大会終了までの間、今回の実施主体である日本の運営委員会で用意し、また、日本の事務局連絡用事務室として一部屋を確保した。この部屋にマイコンならびにゼロックスコピー機を用意し、また、ロンドンオフィス用にIBM互換コンピュータ1台を用意した。なお、実行委員会から1名が連絡役としてこの部屋に詰めることとした。

7月23日および24日に執行委員会が開催され、IAWPRCが抱えている問題、これからの方向などについていわば首脳会議が開催され、木曜からの理事会に掛ける内容の細部検討・調整などが進められた。出席者は10名であり、他にロンドンオフィスから1名ならびに秘書補佐役1名が出席していた。出席者はP. Harremoes会長、松本大会長、A. Milburn事務局長、P. Grau副会長、S.A.A. Almeida副会長、前会長のProf. Engelbrecht、財務担当M.M. Pinto氏、会員J. Bernard、L. Lijklema、H.R. Eisenhauserの各氏であり、事務局秘書はM.D. Kitchingman氏、秘書補佐はL. Haugland氏であった。なお、Harremoes会長のは月曜の午後5時に、高槻市にて開催中であるIAHRとIAWPRCのスペシャリストグループとの共催によるUrban Drainage Symposiumの懇親会にて挨拶のため、出かけている。火曜日の夜にはIAWPRCロンドンオフィス主催の夕食会が京都ANAホテルで開催され、IAWPRCより婦人を含めて13名、日本の組織委員会から会長、3名の副会長を始め、婦人を含めて13名が出席。

7月26日ならびに27日に理事会が京都ANAホテルで開催された。IAWPRC理事会へはわが国からは濱田日本水質汚濁研究協会（JSWPR）会長、松尾教授と私が参加し、その他各国理事を含め60名が出席していた。IAWPRCの現況・抱えている問題、財政的な問題、発展途上国や退職者救済のためのメンバーフィー問題、各国活動報告、1992国際会議開催国アメリカからの勧誘、1998年国際会議開催国の決定（プラハ）等が討論された。さらに、7月26日には京都府知事主催の理事歓迎夕食会が祇園平八別館「神泉苑」で開催され、出席者は106名に達し、すきやきコースを賞味する中、京舞・よたろう太鼓の余興で大変盛り上がった。また、知事から、飾り扇のプレゼントが全員にあった。なお、京都府から、知事を始め土木部長、下水道室長等多くの方々の御出席を得、和やかな中に歓談が出来た。

両日にわたり、理事会の御婦人方を対象にしたファミリープログラムが作られていた。いずれも半日コースであるが、7月26日には金閣寺と比叡山延暦寺へ40名が参加し、7月26日には平安神宮、南禅寺、銀閣寺へとやはり40名の参加をみた。

7月28日にはこれも恒例的に実施されている理事ならびにスペシャリストグループのチェアマンならびに同伴者を中心とした見学旅行が催され、バス3台にて法隆寺、東大寺へと奈良路の見学に出かけた。昼食は奈良ホテルであり、参加者は105名であった。

一方、京都国際会議場ではアルバイターのチュートインが午前中にあるとともに午後からはコンgres

表3 90年京都会議行事予定表

1990年7月4日

	理事会等	本会議	旅行プログラム	社交プログラム	その他	理事等の宿泊			
7/21 (土)					Miluburn 到着 (荷物受渡し) 松本到着	VIP スイート	実務 委員	秘書4人 (1名早く来日)	
7/22 (日)					Harremoes 到 着			ジュニア スイート ANA	
7/23 (月)	執行委員会 (9-17, 10人) ANA								
7/24 (火)	執行委員会 (9-17, 10人) ANA			実務委員夕食会 (19:30-21:30, 30人)ANA					
7/25 (水)							理事		
7/26 (木)	理事会 (9-17, 65人) ANA		理事同伴者旅行 (13-17, 30人) 金閣寺他	理事等委員夕食 会(19:00-, 140 人) 祇園平八 “神泉苑”					
7/27 (金)	理事会 (9-17, 65人) ANA		理事同伴者旅行 (13-17, 30人) 銀閣寺他						
7/28 (土)			理事等見学旅行 9-16:30, 150人) 奈良					6泊 事務局	
7/29 (日)		会長リハーサル (15-17)		ウェルカムパー ティー (17-19)KICH	受付 (13-18:30)				
7/30 (月)		開会式(10-12:15) 展示開会式 (12:30-13) 研究発表		招待会食会 (13:30-15:30, 40人)宝が池プ リンズ	受付(8-18)				
7/31 (火)		(7/30 13:30~ 8/2 16:55) ポスター, 展 示	スタディ ツアー (14~	同伴プ ログラ ム 1,2 (各40人)	大会長招待会食 会(12:45-14: 45, 10人)宝が 池プリンス				
8/1 (水)			16:30) 1.鳥羽 2.蹴上 各40人	同伴プ ログラ ム3(40 人) 市長レセプション (19-20) KICH ガラナイト(20 -23)	同伴プログラ ム(生け花) (20-40人) KICH				
8/2 (木)	理事会 (7:30-10, 65人) KICH	全体会議 (16:30-17:30) 閉会(17:30-18)		サヨナラパーティー (18-19)KICH					
8/3 (金)			テクニカルツ アー(4コース) 1.川俣 2.琵琶湖 3.花博 4.企業					KICH 6泊	

バッグの袋詰めが開始されている。

4. 科学・技術プログラムの実行に関連して

4.1 コングレスバッグの準備

登録受付開始の前日の7月28日午後1時より、実行委員会のメンバー、他の委員会の先生方、学生アルバイト等の総勢約40名でコンgresバッグ詰め作業が開始された。各社交プログラムへの案内状や参加証、個人通報等は個人用封筒で別に登録デスクで手渡すこととなったので、このバッグへの詰め物は、プログラム、プレプリント、参加者リスト、展示会ガイドブック、京都府寄贈パッチや日本手拭などの参加記念品、市内地図や交通情報などのインフォメーション資料、今回のUSAアナウンスメントや各種パンフレット、文具類など20点余りである。1バッグ当り約6kgを1600個作る作業である。IAWPRCの本部より届いて、国際会議場の屋外コンコースに積まれた総量約10トンの荷物の梱包を解く作業に始まり、各種詰め物の詰め、さらに完成バッグの運搬整理等と進み、終了したのは午後5時を回っていた。

4.2 会場の設営と運営体制

① 口頭発表会場とポスター発表会場

口頭発表会場は、ホールA、B、C、D、E、FおよびGの7会場ですべて並行的に行われた。各ホールには発表壇、座長席、発表用・座長用および質問者用マイク、スクリーン、スライドプロジェクター、OHP、同時通訳用イヤホン、同時通訳ブースなどを配置した。各発表者は、事務局の発表受付を通るとともに、スライドプレビュー室でスライドの点検とカセットへの充填を行い、このカセットを各発表ホールの受付に持参する方式とした。発表の進行は座長によって行われたが、各発表会場の実際事務や作業(照明、質問スリッパの回収等の会場管理、各会場でのスライド受付・返却、スライド映写)は学生アルバイト3人体制で実施した。なお、質問者は固定マイクの所まで移動する方式をとった。

ポスター発表は、展示ホールの入口より見渡せる東側の一部、およびICA関係はその口頭発表ホールGの前のロビーで行われた。ポスターはパネルに各発表者が自分で架ける方式としたが、ここにも学生アルバイトを2カ所で3人体制で配置した。

経費節減のため上記以外の事務局連絡係、スナップ写真係、コンgresバッグの運搬・手渡し、ならびにJR京都駅および地下鉄北大路駅での案内でも学生アルバイトに活躍してもらったが、いずれも重要な役目である。このため、登録受付開始の前日、すなわち1990年7月28日土曜日の朝10時より12時半まで学生アルバ

イトのオリエンテーションが実施された。お互いの分担を理解できるように、また必要に応じて代役ができるように、すべてのアルバイトに対して同じオリエンテーションを行った。すなわち、本会議の全般的な概略、国際会館での部屋等の配置の記憶、研究発表での作業の修得、参加者の案内方法などである。学生アルバイトは、大部分を京都大学大学院工学研究科衛生工学専攻の学生でまかない、また立命館大学および東京農工大学の大学院学生にもお願いした。

② 登録、インフォメーション、郵便局、銀行、食堂など

登録は、開会式の前日の7月29日13時より開始され会議開催中続けられた。登録デスクは国際会議場メインゲートに沿って設置され、当日登録(申込用紙チェック、ネームカード作成、バッグチケット等の手渡し)、会計、外国・国内事前登録(個人封筒の手渡し、出席チェック)、およびコンgresバッグ手渡しの各デスクより構成された。ウェルカムパーティーの開始前後、および開会式当日はかなり混雑したが、大過なく済ませることができた。

インフォメーション関係のデスクや案内板等は一階メインロビーに設置した。すなわち、会議関連情報の提供(館内放送、総合案内板の管理)および伝言・拾得物の管理を行う総合案内デスク、また、同伴者プログラム、スタディツアー、テクニカルツアー、ホテル関係および旅行関係の情報事務を取り扱うトラベルデスクとトラベルブース、さらに、個人的な情報交換のためにアルファベット別の個人情報板を設置した。この他、次回開催国である米国のUSANCのブース(次回会議の宣伝パンフレット、ビデオ、Tシャツ、ワッペンなど)、バーガモンプレスのブース(出版物の展示、販売など)およびロンドンオフィスのデスクなども情報関係として、一階メインロビーに配置された。ここは、参加者の通り道であり、また集散場所であり、各責任者からは喜ばれた。

京都国際会議場には郵便局専用ブースがあり、左京郵便局より定期的に出張開局されている。本会議中の開局日は、当初第一日目の7月30日と最終日の8月2日であったが、7月31日の夕刻に、外国人より荷物発送の希望が事務局に殺到するようになったため、急遽折衝し、8月1日の午後も開局してもらった。8月1日には、送る方法や価格などに関する問い合わせがほとんどであったが、8月2日になると小包の発送が殺到し、局員の方は昼食を取る時間も十分にない状況となり、また発送用のダンボール箱の追加注文を本局にする状態となり、結局この日は170個程の注文となった。絵はがきの発送もかなりの数になった。国内発送

は、会議1日目より宅急便フットワークが営業し、これかかなりの数をこなしたと聞いている。今回のようにプレプリントなど重いバッグとなる会議では、このようなサービスも会議成功の重要な要素であると痛感した。

国際会議においては、登録などの支払いの際で、また会議参加のために銀行に行く時間が取れない等の理由で、各国貨幣の交換およびトラベルチェックの現金化などのサービスも重要となる。国際会議場は、このようなサービス部門があり、こちらで銀行にお願いする必要がなく大いに助かった。

本会議では、1600名以上の参加者に昼食を時間内に十分とって貰うことも重要な課題となった。国際会議場周りのレストランの地図と情報をコンgresバッグに入れ流すこととしたが、国際会議場は京都市の郊外にあり周りにはレストランもそう多くはないことや暑い時期であり国際会議場外に出る人は少ないことが考えられた。国際会議場にも2カ所にレストランがあるが、席数は多くはないことや値段も安くはないことから、国際会議場食堂担当者に頼み込み、1000円の弁当を販売し宴会場であるスワンを臨時に食堂としてもらった。

会議期間中のコーヒーブレイクでのコーヒーや紅茶は、期間中共通のチケットを1人1日当り2枚配布し、コーヒーブレイク時間および任意の時間サービス制とした。融通がきき、好評であったようである。

③ 会場運営打ち合わせ体制

本会議の実行に関連する事務局の部屋として、国際本部用、国内本部用および実行事務局用の3部屋が用意された。国際本部用はIAWPRC ロンドン事務局用とし、国内本部用は大会長、組織委員会副委員長、運営委員会メンバーなどの方々が決めた実質的な判断や運営を行う部屋とした。実行事務局用の部屋には、本会議の実行の委託先であるJCSのスタッフと実行委員会のメンバーおよびアルバイト学生の詰めの部屋とした。これは、JCSと実行委員会のメンバーがお互いの任務を理解しながらかつ一体となって会議の進行に寄与するためである。また当然、種々の情報は、まとめられ整理されて必要なときは随時隣の国内本部室の運営委員に知られるという体制をとったものである。また毎日夕刻定例の運営委員会のメンバー等とJCSとの情報交換・打ち合わせ会を持ち連絡の徹底や判断を求めた。また、各運営委員会や実行委員会メンバーおよびJCSスタッフとの緊急の連絡のための国際会議場専用ポケットベルシステムも活用した。

各部屋には、タイプライター、複写機およびワードプロセッサを配置し、事務用資料作成や発表者の緊

急の用に供せるような体制にしておいた。

4.3 輸送計画と交通案内

会議参加者の国際会議場へのメインルートは、北大路駅までの地下鉄利用、およびそこからは参加者が集中するときにはシャトルバスを配置することとし、それ以外の時間帯は約20分に一本の市バス利用あるいはタクシー利用とした。これらの情報は、各ホテルのロビーに設置した情報板にシャトルバス運行時間を貼るとともに、コンgresバッグにはシャトルバス運行時間、市バス時間表および交通ルート図を入れた。

シャトルバスは、開会式、口頭発表および各パーティの開始および終了時刻の前後1各時間、10分間隔を基本に地下鉄北大路駅と国際会議場間を走らせた。またジャパンナイトのときには、各ホテルと国際会議場間のルートも数本セットした。さらに、最終バス時刻には乗り残しのないように増便をした。初日のウェルカムパーティーで遅くまでいた方達の乗り遅れがなかり出た以外は非常にスムーズで効率のよい運搬ができた。もっとも初日の乗り遅れは効果的であり、我々もシャトルバスの配車の拡張を図る努力をするとともに、参加者には日本は時間が厳格であるとの認識がされ、その後のスムーズな会議運営に寄与することとなった。

メインルートでの道順を分かりやすくするため、JR京都駅中央出口、新幹線出口2カ所、空港リムジンバス降り場、ならびに地下鉄京都駅および北大路駅に英語での案内板等を設置した。さらに、京都駅には2名の、また北大路駅には3名の案内・説明者を配置した。さらに、シャトルバス運行中は、シャトルバス乗降場所に案内板を置くとともに、東急観光の担当者が案内・整理にあたった。

5. 各種社交プログラム関連事項

5.1 Meet & Greet

最初の社交プログラムは7月29日(日)午後5時、Sakura 会場で、登録受付に到着した人々のMeet & Greetではじまった。

参加者はほぼ800人で、登録直後の重いカバンを抱えたまま参加し、ビール、ワインと簡単なオードブルが出された。会場内はとくに飾りつけをせず、挨拶もなく、自由に集まり、自由に解散した。参会者は解散予定の午後7時になってビールが尽きても談笑が途絶えず、最終の北大路駅行きのシャトルバスのアナウンスが再三なされたが、午後8時になってやっと終了した。

5.2 開会式

翌7月30日(月)、朝からメインホールで開会式が実施された。午前9時30分開場で続々とシャトルバスで

写真2 第15回国際水質汚濁研究会議開会式

参加者が到着する。10時、生田流の琴演奏が正面左手の特設舞台で始まる。続いて京都少年少女合唱団による京の童歌。このアトラクションの間にホール横の貴賓室に登壇者が集合し、さらに舞台上に着席。松尾総務委員長の総合司会のもと、各人紹介により登壇。北川石松環境庁長官、荒巻禎一京都府知事、田邊朋一京都市長、安橋隆雄環境庁水質保全局長、松本順一郎京都会議大会長、P. Harremoes IAWPRC 会長、P. Grau 次期会長、濱田昭 JSWPR 会長、久保起、合田健、平岡正勝、不破敬一郎の各組織委員会副委員長、眞柄泰基運営委員長が着席。ホール正面にはIAWPRC Biennialの吊り看板。

開会宣言は松本大会長、続いて濱田 JSWPR 会長の挨拶がなされた。さらに祝辞が続く。北川環境庁長官、荒巻京都府知事、田邊京都市長。知事と市長が同席するのは京都では珍しいそうである。これに答えて Harremoes IAWPRC 会長の答礼、および45分間にわたる講演が行われた。内容は“State of Assosiation”, “Technical Presentation”である。この講演には2台のスライドが使用され、前日午後にはリハーサルが行われた。なお、新名誉会員等に対する授賞があり、すべ

写真3 市長レセプション会場

写真4 ガラナイト風景, “Let's Dance”

てのプログラムが終了し、最後は再び琴の演奏で散会となった。

5.3 市長レセプションと Gala Night

会場は Sakura。舞台正面には金屏風と Mayor's Receptionの吊り看板を用意。通訳、司会には会議の同時通訳者を流用し、市長の歓談の際の通訳も行った。参加者は徐々に集まると見越してオードブル700名分、ビール1200本で開始。

8月1日18時頃よりシャトルバスで次々に参加者が集まり、19時開始の頃にはほぼ2,000人近くが集まっていた。Sakura 入口には京都市上下水道事業管理者、水道局長、下水道局長、下水道局技術本部長等が立礼し、参加者を迎えた。予想以上の参加者があり、テーブルの上は瞬く間に空となり、オープニングの琴演奏が終わる頃には間が持ちづらくなったため、予定を変更し、市長の挨拶と Harremoes 会長の答礼を先に実行。市長の挨拶の間、ヒューズがとび、マイク一時不通のハプニングが発生。市長の“私は医者ですがこればかりは治せません”との機転のきいたジョークで和やかになったのを受け、Harremoes 会長の挨拶。続いて京舞が始まり、祇園の舞妓、芸妓にカメラを向ける者、一

写真5 ガラナイトの夜景に浮かび上った仕掛花火, 25th Anniv. IAWPRC

写真6 賑々しく繰り出した徳島県人会の連

緒に撮る者などがでた。約2,000人が一度に集まることは予想外であったが、京都市長の招待にかくも多くの方々の参加を得、会としては華やかな物とすることが出来た。

Gala Night は引き続き庭園で行われた。用意された料理は Buffet style, 屋台 (寿司, 焼鳥, 蕎麦), ビール, 各種カクテル。その他庭園にはかがり火がたかれた。花火の準備は国友銃砲。阿波踊りは寝屋川の社中老若男女約40名。生バンドはラテン&ソシアルコンボであった。

市長レセプションの後、庭園入口は行列である。Opening を告げる花火が上がると庭園の水上ステージにスポットライトがあたる。Gala Night 開幕にあたり、宗宮実行委員長のメッセージが伝えられる。メッセージの終了とともに花火が上がる。宝が池の空にいっぱい広がる花火である。折からの月夜で、空は花火と月との競演となった。宝が池の暗闇を背景に仕掛が走る。「25TH ANNIV. IAWPRC」, そしてナイアグラの滝, スターマインと連射打ち上げで夜空はクライマックスに達する。とどめの仕掛文字は「LET'S DANCE」。庭園奥から鐘や太鼓の音が沸き起こる。阿波踊りが近づいて来た。庭園の建物付近は食事談笑する人で立錫の余地もない。用意した手拭はあちこちから手が伸びてきてたちまち消えた。鉢巻姿が目立ち始める。最初はためらっていた人々も、社中の誘いに誘われて踊りの輪の中へ加わっていく。鐘、太鼓そして踊る人々は庭園を練り歩く。屋内ではダンスパーティが始まった。スタンダードナンバーが始まるとたちまちフロアは人で埋まった。ときにはディスコ風に激しく、そしてタンゴ、ワルツ。紳士淑女円舞の賑わい。時も速く過ぎ去り、はや最終バスの時刻が近づいてきた。ラストナンバーは「The Last Waltz」。名残惜しくも賑々しき宴の千秋楽である。去り行く参会者からは、しきりに Fantastic Night! この Conference は大

成功であろう、との声が聞かれた。

5.4 さよならパーティ

8月2日 Hall A での Plenary Session が長引き、Closing Remark が外で行われ、閉会式とサヨナラパーティが同時進行した。折からご婦人方がシャトルバスで続々と到着し、パーティの開始を待っている。マイクの脇には樽酒4斗が置いてあり、濱田 JSWPR 会長によるポスターセッション優秀賞の授与の横では酒盛りが盛り上がりつつある。「IAWPRC's 25th Anniversary」と焼きいれた枡はお持ち帰り自由。進行の遅れと会場外での閉会式と若干の予定外のことは起こったが、結果的には賑やかで和やかな "sayonara" となった。

5.5 テクニカルツアー

テクニカルツアーには京都市関係の施設を会期中に見学するスタディツアーと、8月3日に4コースに分かれて実施されたツアーがあった。

スタディツアーは、京都市の上下水道事業管理者宛に実行委員長名で施設見学の許可申請書類を提出した。ツアーは7月31日、8月1日、2日の3日間にあたり、京都市蹴上浄水場、琵琶湖疏水記念館の水道見学、鳥羽処理場の下水道見学の2コースで各々参加予定数40名/日を見込んだ。申し込み人数に余裕ある場合は on site で参加受付を実施した。連日にわたり京都市より2名の技術者を迎え、現地までバスで誘導願った。現地で京都市職員が英語で説明した。

8月3日のテクニカルツアーの概要を各コース毎に以下に示す。ツアー1は大阪府鴻池処理場、川俣処理場へ主に水質自動制御計測ワークショップ (ICA) の企画で実施された。大阪府の土木部水道課長宛に ICA 委員長名で施設見学の許可申請書類が提出された。このツアーは ICA 参加者がほとんどで、バス2台で参加人数は75名。鴻池、川俣処理場とも実行委員会の援助で作成された英語のパンフレットを準備し、場長による

写真7 テクニカルツアー3、ナニワ大放水路、花博コース

説明がなされた。

ツアー2は琵琶湖周辺の水道、下水道の見学コースであった。滋賀県の土木部下水道計画課長宛に、また南部水道事務所長宛に、実行委員長名で施設見学の許可申請書類を提出した。最終的な打合わせは各々現地で、7月5日実行委員と担当職員との間でなされた。参加数は事前申し込みで満員となり打ち切り、実数81名であった。湖南中部浄化センターでは専務理事および担当係長が滋賀県作成の英文パンフレットにより英語説明があり、その後質問を受ける。特級の処理水質を誇る処理場であり、施設の見学は大変活発で、様々な質問が出された。昼食時には滋賀県からオードブルの差し入れが届けられた。吉川浄水場では所長の日本語による説明があり、通訳が英訳。実行委員会のサジェッションを入れた英文パンフを配布。その後比叡山延暦寺を経て帰路。

ツアー3は、大阪市ナニワ大放水路と国際花と緑の博覧会の見学。人数に余裕があったのでOn Siteで受付。大阪市下水道局長宛に、実行委員長名で施設見学の許可申請書類を提出。参加実数32名。放水路立って抗のエレベーターの許容量から大人数は難しいとの懸念があったが、結果的には適正規模の人数となった。現場プレハブにて英文パンフ（日英併記）とスライドにより、大阪市平野処理場場長の説明をうける。その後、全員作業着、ヘルメット、ゴム長を着用して立って抗エレベーターより10m下降。半数はトロッコで、半数は徒歩で掘削現場までの1.5kmを進む。トンネル径は6.5m。照明暗く、蒸し暑い。進むにつれ水蒸気沸き立ち視界定かならず。地底の大トンネルに圧倒された1時間であった。その後花博へ。与えられた時間は3時間。昼食は2,000円クーポン券で場内レストランで各自とる。場内は各自自由行動。炎天下、照り返しが強く適当に観覧の後無事バスへ戻る。

ツアー4は日本の高度技術の見学コースを設定し、発酵とエレクトロニクスに焦点を当て、関西の代表的企業としてサントリー山崎工場と松下電器技術館をめぐる。7月13日時点で参加申し込みが最小催行人数の20名に達せず、中止の意見もきかれたが、On siteで受け付けることとなった。結果的に参加実数は44名。サントリー山崎蒸留所はウイスキー蒸留工場で伝統的な発酵・蒸留設備に新しい設備が加わった複合型の蒸留所で辛党にはたまらなかったであろう。松下電器技術館は表彰を受けた代表的技術、歴史、映像、音響、半導体、オートメーションシステム、ハイビジョンシステムなどNationalの誇るハイテクノロジーが示された。

5.6 Family Program

ファミリープログラムのうち7月31日に実施された2つのコースは、京都の伝統工芸を体験してもらうことを主眼とした。ひとつは古代友禅苑で友禅染の実習を、もうひとつは観峰会館で書道の体験を計画した。友禅染ではハンカチを染めてもらいおみやげとして持ち帰ってもらった。参加実数48名。書道コースは日本習字教育財団宛に実行委員長名で観峰会館見学の申請書を提出した。人数制限があり参加実数22名。参加者は日本書道の体験を大変喜んでいたり、また観峰会館も外国人の見学者の写真を館報に掲載したいという申し込みがなされ、双方にとっても印象深いものとなったようだ。体験ツアーの後、岡崎「あみた」で昼食をとったのち、ハンディクラフトセンターで買物を楽しんだ。

8月1日には京都市内半日観光コースが組まれた。金閣寺、平安神宮、清水寺と京都市内の代表的な神社仏閣、いわば最もスタンダードなコースであったこと、Gala Night直前でホテルに帰りやすい市内に在るという諸条件から予定をはるかに上回る参加者を得、参加実数78名。バスを2台に増加して実施した。

同日国際会議場の5階で生け花の講習会が開かれた。華道は京都市内の東山末生流(家元 本隆寺)。華務長宛、講習会開催に関する依頼状を実行委員長名で提出。8月1日9時講師陣15名花とともに来館。直ちに1階中央メッセージボード前およびメインエントランスに3つの飾り花を合作。参加実数33名。華道の概説は東急観光の通訳と打ち合わせの後、実施。ついで典型的いけ方のスライド説明。用意された花の材料から各自好きなものを選び、自由にいけこんでもらう。たちまち独創的な作品が出来、記念写真をとり始める。その後1階メインエントランスへ各自作品を抱え移動。これらの作品群が直後に始まった市長レセプション、Gala Night参加者の入場を迎える形で文字どおり花

写真8 ファミリープログラム、KICHでの茶会

を添えた。花は翌日会議参加者にプレゼントされた。

8月1日お茶会が企画された。国際会議場庭園の茶室を使い、裏千家のお手前をサービスする。事前に茶道の説明を入れた Invitation を印刷し Information Desk に置き、先着300名に配った。参加者は約160名程度で、1回約20分程度であった。茶の師匠は英語のできる外国人であり、参加者の中には日本文化の真髄に触れたといたく感激される人もあり、京都の伝統文化を演出することができたといえよう。

6. 会場裏話

1) 会場準備等

最後までホール D と E が逆転したまま。

アルバイトの学生はスタッフ以上にハッスルしてくれて、成功したが、その表れのひとつとして補助椅子を入れるべきであると JCS に食ってかかる一幕も。

ジャパナイトでの照明：仕掛花火の始まるときに照明が消えたが、実はその前の打ち上げ花火と同時に消えるはずであったようである。結果的には食事や防災面で OK であった。

京都国際会議場の上田課長と片岡氏の職業意識はすばらしく、この会議の成功は彼らに負うところが大き

い。どこかの会議場のように時間や権利等にのみうるさいところとは大違いである。

2) コンgressバッグの準備

すさまじく会議が半分終わった感じであった。あくる日に腰や腕が痛く、……。

3) 忘れ物等。

タクシーに忘れ物 2 件：数時間以内に無事届けられる。日本は平和である。

バッグの間違い：最終日の夕刻無事見つかる。よかった。

4) 救護

国際会議場の保健室……事務局に届けられた者 2 件、たいしたことなし。

5) 食堂

食堂担当の、片岡氏の職業意識と感ビューターには脱帽

6) お茶会

数時間にわたって行われるとの誤認を与えた。

7) 郵便局

郵便局員に早変わり。実行小(症)委員会の委員は、何でも進んでする。